

書評

生田 宗博 編

ADL—作業療法の戦略・戦術・技術

渡邊 慎一（横浜市総合リハビリテーションセンター地域サービス室）

作業療法士のために書かれた ADL（生活・活動）の専門書である。サブタイトルに作業療法の戦略・戦術・技術とあるように、戦略的および戦術的方法で ADL プログラムを立案・実践できるように解説されている。ここでの「戦略」とは目的を達成させる全体的方法、「戦術」とは個々の方法の立案と進め方、「技術」とは個々の方法である。本書は 4 つの章から構成されているが、タイトルどおりに、それぞれの章が ADL に対する戦略的方法を統括アプローチ、戦術的方法を実践アプローチとして系統立てられ、実践的・実用的な仕上がりとなっている。

第 1 章「ADL 訓練プログラム立案の基本と要点」では、まさに ADL 訓練における戦略・戦術・技術とは何か、図表を用いて丁寧に解説されている。急性期の訓練プログラムが回復期・維持期などの訓練プログラムの構成と異なっていることが気になるが、ここには本書のコンセプトが詰まっており、読

者の ADL 訓練の経験に照らし合わせながら、読み砕いていく楽しみが味わえる箇所である。第 2・3 章は「技術」解説の章である。第 2 章「ADL の評価と指導」では ADL 項目別に実践的な指導内容が解説され、第 3 章「質の高い暮らし方—APDL, QOL」では、住む、家事・家の管理、外出・外泊、余暇を楽しむとして、身の回り動作よりも多様な形態をもつこれらの動作が限られた紙面のなかでポイントを絞ってコンパクトにまとめられている。第 4 章では ADL に関する発達、高次脳機能障害、姿勢・運動バランス、協調動作と物品操作、筋力、関節運動などが「ADL の基本となる機能」として明示されている。

本書は著者らの豊富な経験の蓄積をもとに、編者である生田氏の戦略的思考のうえに構成された専門書と言えよう。複雑な ADL に取り組むものにとって、この方法論は助けになるに違いない。

（B5 頁 320 4,200+税 2001 三輪書店刊）